

# 水源禪師法話集 14

(2012年9月17日 忍野合宿)

2013年5月29日

一乘会



## 目次

---

<b>水源禅師法話</b> .....	1
自分の体験を通してわかる.....	1
四大（地水火風）.....	2
アインシュタインと空.....	3
あなた自身で知りなさい.....	3
<b>質疑応答</b> .....	5
心は空.....	5
人知の浅はかさ.....	5
過去世を観る.....	8
時間の相対性.....	9
供養は慈悲の行.....	9
バックグラウンドエネルギー.....	11
火宅から出る.....	12
インドの聖者.....	14
四聖諦と十二縁起.....	15
自分で空を観る.....	17

## 水源禪師法話

---

### 自分の体験を通してわかる

---

いろんな生命体からどういうふうが発生するとか、いろいろそこに書いてますから。一番そこで重要視されるのは、最後の「一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作如是観」<sup>1</sup>。達磨大師がこれを残して、150歳でパミール高原を通過して、帰って往きました。こういうふうに非常に簡単に言ってしまったもので、南方禪をやらない限り、この謎は解けないわけなんです。

「一切有為法、如夢幻泡影」（いっさいの物事は、夢・幻・泡・影）というのは十二因縁、縁起のこと。十二縁起の因縁はこうなってますということで、その因縁を深く体験するには、達磨の禅法では、やっぱり自分の過去を観て、それから未来を観る。

南方では過去を七つ観て、未来を最低七つ。アラハット（阿羅漢）になったらもう一回しか観れないと。今回でもう絶対、観れないと。アナガミ（不還）になれば一回だけ。そのあとは涅槃の現象を起こす。サカタガミ（一來）になれば二回。そのあと涅槃の現象を起こす。観たときに観えます。そのブッダゴーサ<sup>2</sup>（の言うとおりの）。

結局、南方でも北伝でも、やる教科は一緒で、北伝の場合は、1000年あたりになぜか法難が起こって、ヴィパッサナー、ニミッタの使い方が消えたみたいですね。ただ、奇跡的にビルマに残って、その教典を見たら、やっぱりニミッタが非常に大切に、この力でもってナーマ・ルーパ（を観る）。名（めい）、色（しき）。よく名色名色と言って。

名というのはナーマ（心）。色というのはルーパ（物質）。非常に大切です。中国では「究極の因」と言ってますか？

だから、そういうことをやっぱりしっかり観なきゃダメです。これをしっかり観て、はじめて今度、自分の因縁の法則というのが、自分の体験を通してわかるから。よその体験じゃダメなんです。「自分自身で食べて飲んで寝る」と、自分自身の体験でしか因縁は理解できません、いくらよその分析をしても。それではっきりと因縁がわかったときに、一切は「夢幻泡影」、つまり空の世界である。

---

<sup>1</sup> 『金剛般若経』の一節。

<sup>2</sup> 5世紀ごろのインドの代表的な仏教学者で、『清浄道論』の著者。

## 四大（地水火風）

---

「如露亦如電」（露のごとく、また、雷のごとし）というのは、結局、露でしょ、露一水なんです。水には流体性と表面張力の縮小性という、ストッキングで体張ると、こういうことを少し指し示している、この宇宙の原理は。「風水火土」（ふうすいかど）。

結局、火というのは熱。熱の粒子があって、これが究極に冷たくもなり、究極に熱くもなる。その見方によって、暑さ寒さが決定するわけです。だから、ある生命体にとっては、ここがもう地獄のように冷たく、ある生命体にとっては、もう太陽のように暑い。ある生命体にとっては、太陽の中がまるで涼しい普通の空間である。ということは、火のルーパを観たら、それがすぐわかります。観る心によって熱くもなり寒くもなりますから。だから、どの時点でも、100万度の超温度でも、これが自分の視点で「涼しい」となったら、その時点で涼しくなる。

そういうふうに…宇宙はそういうふうに行っている。だから、水は流体性と凝縮する、シュッと張り詰める、二つの性質を持っている。

空気は、風（ふう）というのは、風が押すように、また支えるように、グラビティー（重力）的な力があります、ということですね、グラビティー。

土というのはね、この物質の現象界—柔らかさ、硬さ、滑らかさ、粗雑なガサガサした重さ軽さ。

これで、この四大（元素）で全宇宙が成っているということが「一切有為法」の「色」。名色の「名」はナーマ。心の動きが今度…心がこの物質に当たってね。眼には10のルーパ、耳には10のルーパ。それから鼻、それから舌、全部で54の物質。<sup>1</sup>これすべてにナーマ（心）がくっついて、わたしたち今体験しているようになっている。

これはすべて因縁によって起こる、というのが「一切有為法、如夢幻泡影」。「夢・幻・泡のごとく生まれて去る」と。「人生もまた泡の如く、また幻の如く、陽炎の如く」ということです。

その力は稲妻の如くと。稲妻、示したでしょう？稲妻の0.31秒。心、ナーマは大体10兆のヴァイブレーションでダーッと発生する。そういうことなんです。

---

<sup>1</sup> 眼門、耳門、鼻門、舌門における「10のルーパ」（十集）とは、地・水・火・風・色・におい・味・栄養素・命根・パサダ（透明）のことで、これに身体十集、性十集、心八集、時節八集、食八集を併せて54種。ただし、身門にあるのは、身十集、性十集、心八集、時節八集、食八集で44種。

## アインシュタインと空

---

この現実の世界は、大体10ナノメートル。その空間でしかわたしたちは生きてない。だから、少しぶれてしまえば、プッと空中から消えて他の時代・次元に入ってしまう。けど、それをプッと消すくらいの力は、原爆をもっても破壊できないエネルギー体でできている。それをバックグラウンドエナジーといって、空の世界に入るから、アインシュタインはもうそこに絶対に手を付けなかった。

アインシュタインはね、なぜ手を付けなかったかといえ、もう一つ理由があると思います。長崎と広島で原爆を落とした後、彼は一切それから靴を履かなかった。雨の日でも、雪の日でも、プリンストン大学に行くときに地下鉄に乗っても何しても、靴は履かなかった。つまり、責任、感じたわけなんですよ。自分は人類のためにしようと思ったのが、人類を殺した、大変な災いを起こした。オッペンハイマーは悪魔の火を造ったということで、その後、全部やめました。

そういう方はもう耐えられないですよ。というのは、人類のことを考えたのに、そういうふうで大破壊の世界に入ってしまったから。だから、アインシュタインは空の世界を知っていたけど、わざと絶対にそこには触れなかった。もし触れて他の人がバックグラウンドエナジーに走ったら、原爆以上のことになってしまうから。ただし、彼は死ぬ間際まで筆記をしてたね、ダーッと数学の計算。ということは、さっき言ったでしょ？死ぬ10秒、5秒前が決定してしまうと。彼はもっと研究したかったわけなんですね。

彼は、数学が実は全然できなかった。だから落第したわけです。彼はすばらしい友人をもって、数学の手ほどの極意書を与えられたわけです。この図書館に行って、この本を読みなさいと。わたしの娘も数学でトップクラスと言ったのは、ここの図書館に行って、この本を読みなさいと。それを一、二、三とやれば、必ず100点満点、どんな数学でも取るから、これも因縁なんですよ。

だからその出会い。だから有名学校に入るといのは、そういう先生方がおって、どここの大学に入るにはこの教科この教科と、それをやれば通ります。ただし天才もいますからね、教えられなくても解るとい（笑い）。

## あなた自身で知りなさい

---

そういうことで、「一切有為法、如夢幻泡影」。この真理は虎の巻でもダメ、先生でもダメ、お釈迦様でも「あなた自身で知りなさい」と。だから、十二因縁を自分で観ることが非常に必要になってくるわけ。因縁はどういうふうに働くと。いくら本を読んでもダメですという。

だから、結局、教科では達摩多羅禪、禪ですね。最終科目が十二因縁に入ってきます。

ここでずーっとやらせて、最後に空の世界に入るんですけども、突然、六祖大師<sup>1</sup>のときはね、空をそれから教え始めて、大変な善知識をたくさん出したんですよ。空をやらせてから、逆に全部やらせたほうが楽だから、「色即是空」じゃなく「空即是色」をやったわけなんです。「空即空、色即色」と、そういうふうに新しい展開を中国でしてしまっただけなんです。それから今度みんな簡単にやる方をねらったもんだから、この本科の方を忘れてしまってるみたいです。

ただし、わたしの場合は、南方に行って本科を観て「いやー…これ空の世界と一緒にじゃないか」と。まさにわたしは南方と北伝、一緒だと思ったら、やっぱり、よく読んだら一緒なんです。これを今までどの先生も発表してなかったということは、結局、体験でしかわからないことだから。体験すれば…南伝・北伝、体験すれば、まさにそのとおりだと。体験しなければ、こっちの禅を勉強している人もこれを否定すると思います。「あら、あったのか」と。

ただし、空を（北伝で）体験していたら、南伝は簡単に卒業するはず。6ヶ月で。だから、わたしの先生は「お前、なんでそんなに遅くかかったのか。6ヶ月でその教科は済むべきじゃないか」と、まあ、ちょっと怒られたんです。

だから、結局ね、本当に勉強している人だったら、教える立場として、ミャンマーにでも行き実験してくるべきですよ。また、ミャンマーの人にも本当に知っているんだしたら、北伝の禅を勉強するべき。

というのは、今回、前回、パオのダンマチャリアと談論したときに、最後に「お前の先生はだれか？ 教えを請いたい。どこで禅を勉強できるか？」ということになって、彼は正直なわけですよ。ダンマチャリアといったら、ミャンマーで最高の学位なわけなんです。そこまですんなり素直なんです。そこまですんなりしない人は大きな問題を起す。そしていろんな本を書きます。人を惑わす。つまり、昨日、示したように、いつも一人で森の中において「何もかも悟った」と。こういうところに住む人は無益である、ということを実践しているわけなんです。ただそれはそれでいいんです。ただ人を惑わすと、これだけは大変、悪いことです。本当の意味で仏法を破壊してしまいます。

だから、結局、本当に仏教に帰依する人は「分からないことは分からない」と。特に教える立場にある人は、お金の問題じゃないんですよ、実は。ビジネスじゃないんですよ、仏教は。だから、ほとんどのお坊さん方はガンの末期症状ですよ。苦しんでるわけなんです。世間もまた勉強しなくてもいいから「忙しい、忙しい、忙しい」と。会社で一切ほったらかしで、会社にいればそれで（笑い）、勉強しなくてもいいからね。

---

<sup>1</sup> 中国禅宗（南宗）の第六祖の慧能（大鑑）禅師（638-713）のこと。范陽（北京市）の盧氏出身の禅僧。

やっぱり勉強するというのは辛いことなんですよ、禪とかね、本当のこういう勉強は。結果も出ないし、何十年やっても保証もないし。これが本当の勉強です。自分でしか回答できない。先生から教えられても意味のない。自分でしか分かることができない。

だから、この永遠の叡智ね。これをお釈迦様が残して、今でもちゃんと生きています。だからこういうことを目の当たりに見た人は、もうそれだけで救われてるわけです。いつの日か必ずなりますから。ま、そういうことで、法話は簡単に今日は終わります。

## 質疑応答

---

### 心は空

---

#### 【参加者】

心って一体、何なんですか。人に聞かずに自分で調べて瞑想やったほうがいいですか？

#### 【水源師】

うん、まあ、心理学とか仏教心理学とかいうけど、それは自分で体験してはじめて分かることで、行動はコンピュータみたいなもので、ちょうど『清浄道論』<sup>1</sup>に書かれたそのとおりであるけども、それを名色の体験をしていって初めて心の動きは分かる。

その心というのはちょうど陽炎みたいなもので、「空」そのものなんです。だからね、「空」を知る必要があります。だから、南方では、アナッタ（無我）・アニッチャ（無常）・ドウッカ（苦）。この三つがはっきり分かったときに、心の概要がつかめます。核心は空を知って、そのうえで空の法則はどうなっているかと。その法則の法則はどうなっているか、というときに、あなたの質問は全解、わかります。あなた自体は、いくらわたしがこういう虎の巻のことを言っても、何、言ってるかわからないはず。だから、あなたがね、食事して食べてはじめてわかること、このご馳走は。わたしの言っていることは、過去の偉大な聖者が同じことを同じ回答をしています。それしかないから。

### 人知の浅はかさ

---

#### 【参加者】

話は変わるんですけど、虎に食われる前（最中）に、悟ったっていう話があるじゃな

---

<sup>1</sup> ブッダゴーサの主著で、南方仏教最大の教理綱要書ともいわれる。

いですか。それは悟ったほうはいいけれど、虎のほうは罪が重くなってかわいそうな気がするんですけど。

### 【水源師】

いや、そうでもないです。こういう話があります。地藏菩薩の化身といわれる方が中国に出現して、この方が九の華の山—「九華山」という山。有名ですよ。「真身地藏」ということで。

中国には四つの菩薩の聖地があります。九華山（地藏菩薩）、峨眉山（普賢菩薩）、普陀山（観音菩薩—補陀落観音）、五台山（文殊菩薩）。<sup>1</sup>

この九華山の山で修行して、偉いお坊さん、高僧が化身になっていたときに、村の人が訪ねていったわけですよ。そこに行けば、すごい良い縁起が起こるし、病気も治るし、ということも駆けつけて、人がどんどん来るんだけど、その山には毒蛇とか毒虫がおってね、彼に会いに来るために病気になったり、重い病を起こすわけなんです。

それで、このお坊様がね、山の神に、「(彼らは) なんとかわたしを訪ねてくるから、あなたの家来にこれをやめさせるようにしてくれないか？」と。そしたら山の女神がね、「いや～、わたしの毒虫とか毒蛇とかは、そういう特徴に生まれているものだから、やめろと言ってもやめさせることができません」と。「その代わり、それを治す泉を与えます」と。

というふうに、瞑想でジャーナ（禅定）に入ったら対話できるわけなんですよ。そしたらなんとその後、バーっと山のとっぺんから水が噴き出て、その水で洗ったら不思議とすぐ治るわけなんですよ。それがまた有名になって、今でも九華山といたら一ちょうど上海の奥にあるんですけど—上海の近くには補陀落観音の普陀山も近くにあるし、天台教の天台山もあるけども、九華山がその一つで、そこには観光バスもどんどんどこ行ってます。

そういうふうなことで、やっぱり虎はね、そういうふうにも生まれた習性だから、食わざるを得ないわけなんですよ。だからそれをダメだといって殺してしまうのも、これも人間の浅はかな考えで。だから、全部それは自然の因縁において処理しなければいけないわけなんです。

というのは、カナダでね…その昔、「狼は悪い」と。罪もない鹿をいっぱい殺すからと。それで絶滅させたわけなんですよ。そしたらもう障がいのある鹿がいっぱい生まれてね。結局、鹿自体が全滅してしまった。

---

<sup>1</sup> この中国（四ヶ所）の著名な仏教名山・霊山・聖山のことを「中国四大仏教名山」という。



アフリカでも、マラリアって恐ろしい病気があるでしょ？それで WHO（世界保健機関）がお金を出して、子どもを救わなきゃいけないということで、マラリアの予防注射をやったわけなんです。そしたら、そこら辺で人口爆発して、挙句の果て、村全滅して全部、死んじゃった。

だから、因果関係というのはそう簡単なもんじゃないわけ。戦争はたしかに悪い。ところが、この第一次世界大戦が起こった後で、アインシュタインとか、そういう科学が急速に発展したわけなんです。第一次世界大戦によって、古い習慣が全部、壊れて、日本にこういう新しいデモクラシーとかね、人権という。また、日本もその恩恵を受けて、コンピュータとか車とか、世界に誇るものができたわけなんです。

だから、一方的なことだけではジャッジメント（判断）できないけども、結局、そういうことを分かってる文化は、昔、活人したわけなんです。人間の習性はね…「活人にしか戦争を防げない」と。

それをやったのが、アズテック（インカ）。あの図形を見たら、彼らはナーマ・ルーパ（名・色）知ってますね。高度に発達した文明です。挙句の果てに、その因果を変えたために、結局、コンキスタード（征服者）が来て全滅してしまう文化。

だから、因果というのはそう簡単にね、「こうである、ああである」と、人間の浅はかな力を変えたときに、大変な問題を起こすと思いますよ。特に、その昔、稲作を豊作にするために「田んぼの害虫は悪い」と、皆殺しにするようなダイオキシンの使ったんですよ。

ダイオキシンって分かりますか？大変な猛毒で、がん（癌）のエージェント（原因）。それを全日本に撒いたんです。医学界はどういう処理しているか分かりませんが、後遺症はあるはず。そういうことです。

だから、よほど気を付けて、科学科学といっても、ただその現象だけ追って、やった挙げ句の果て、一般の人がそのツケ払い。福島原発みたい。だから、叡智しかないわけ。叡智を磨いて、いかにすばらしいことを言っても、結局、アインシュタインが、長崎広島に原爆を落とした後、死ぬまで靴を履かなかった。冬でも、どんな日でも。

というのは、抗議したわけ。わめいたって騒いだって聞くわけじゃないでしょ？だから、自分で結局、自分をパニッシュした（罰した）。責任があるから、靴、履かなかった。それはアメリカは悪いですよ。モンサント<sup>1</sup>という、そういう…。

でも、日本の政治家が、それに対してはっきり抗議した人がいますか？政治家で。第二次世界大戦で民衆を殺して、自分たちは黙ってるでしょ？その後、どんだけ被爆で

---

<sup>1</sup> モンサント社はアメリカ企業で、原爆の製造にもかかわった多国籍バイオ化学メーカー。

苦しんでも、最後やっとなんとお金出す。これは悪魔ですよ、はっきり言って。悪魔でしかない。わたしから見たら。（口調を強めて）悪魔を上に乗せて、どうして民衆が幸せ受けますか？その悪魔と名指した人は、アメリカの第一代人類学者の館長です。

「ジョセフ・キャンベル」（1904-1987）という偉大な人類学者。

だから、日本のトップは、もう世界からそこまで言われているんだから、本当に今、悔い改めなければ、どこまで落ちていくかということですよ。つまり、「敵は本能寺にあり」ということを今やってるわけなんですよ。この日本で。全くの悔い改めがない。ますます若者をいじめたり、仕事を取ったり働かせたり。

わたしが若いころなんと言ったと思います？カナダでも、「これからは素晴らしい社会が来る」と。「3日働けば、あと4日休んで、あとは叡智を養うだけ」と。なんと今は仕事を三つ持たなきゃ暮らしていけない（笑い）。これはまさに悪魔の罠ですね。

それは西洋の偉大なナン（修道女）がね…セント・テレジア<sup>1</sup>（1873-1897）という人が、1800年代にまさにこのことを指摘してましたけど。カルメル会という修道院の素晴らしい聖女ですけども。ま、そういうことです。

## 過去世を観る

---

### 【参加者】

先生、死ぬ5秒から10秒の間が非常に大切だとおっしゃいましたが、それをもう少し詳しく説明していただけますか？

### 【水源師】

それは、自分で過去世を観たときに、どの時点で他の生命体に入るか、それをずーっと観てください。そしたら、わたしが説明するより、あなたが分かると思う、自分自身で。

### 【参加者】

誰でも死ぬ5秒、10秒前が大切ということですよ。その間が次に入る生き物を規定するからという。

### 【水源師】

そうですね。だから自分の過去世を観ることが非常に大切。どういうふうにして、どうなったかという、その瞬間をずーっと観てください。

---

<sup>1</sup> リジューのテレーズのことで、19世紀フランスのカルメル会修道女。

## 時間の相対性

---

### 【参加者】

昨日「ナモブツダ」のお話がありましたけど、お墓参りとか先祖のことをお参りする  
ことについて、仏教というか、水源先生の考えとしてどういうふうな？

### 【水源師】

やっぱりね、こっちの時間帯から、本人の時間帯から見たら瞬間的に移動してますけども、こっちの時間帯から見たら、5年、100年、1ヶ月、49日—いろんなケースバイケースがあります。だから、その空間の時間帯が違うわけなんですよ。ブラックホールの近くでは時間が止まってしまう。地球では地球の時間帯で1年2年だけでも、あっちの時間帯では1万年が1秒にもらない。

ほかの空間自体でお話したけど、たった5時間が帰ってきたら5年間だった浦島太郎。その現象が実際—浦島太郎さんじゃないけど（笑い）—この宇宙は非常に複雑怪奇に、夏になれば暑くなり、冬になれば寒くなる。そういうふうになるんだけど、突然、夏に雪が降ってみたり。Micro-weather（微気象）<sup>1</sup>とってね。突然、大雨が降ってみたり。

というふうに、この地球の天候ですら、こんだけだからね。この空間自体は、そう簡単にピチピチッと「1+1=2」という、そういうふうにはなっていないし、宇宙には「1」という存在はないんですよ。わたしたちが勝手に作り上げてることです。

昨日、説明した数比もまた、10まではなんとかなるけど、そのうちは潰れると。そういうもんです。

なんかあんまり深いことを話したら…（笑い）。簡単な世間話で終わればいいんだけど（笑い）。それはそういう話をする先生方がいっぱいいるから。人生の悩みとか…ね？それで納得すればそっちの方で。わたしはわたしの役目で、こっちの方で一応、説明させていただきます。

## 供養は慈悲の行

---

### 【参加者】

わたしはうちに仏壇があって、毎日お線香あげてますけど、そういうことは無意味ではないのか？ということです。

---

<sup>1</sup> 地表面から2メートルあるいは100メートルくらいまでの大気現象。

【水源師】

メッタです。メッター慈悲の行だから。メッタというのは、心は全宇宙そのものだから。だから、先祖とか両親は、やっぱり、その先祖の先祖でつながってるし。またこの世にはね、どこにも行けない幽霊がいっぱいモジャモジャしてます。そういう人たちはいらだつわけなんです。目の前にいても知らんぷり。ご飯食べたくても、あなただけ食べて食べられない。今度、悪さするわけなんです。そしたら、鬼とかそういう名前がついてくるわけ。昔は偉いお坊さんがいて、どんどこ遠いところに上げたけれど、今はそういう力がなくて、お坊さん自体が信じてないもんだから行けないわけなんです。カナダも一緒です。

だから、この前、高校の先生がね、「川に呼ばれている」と。「眠れない」と。毎夜毎夜、川から呼ばれて寝ることができないと。1ヶ月、寝ないでご覧なさい？6ヶ月、寝ないでご覧なさい？頭がおかしくなるよ（笑い）。

それで仕方なく行ったら、やっぱり、うようよと…そこで1800年代に殺されたインディアンがいっぱいおったわけですね。とどまっていたわけ。供養されてないから。そのところに教会もあるんだけど、お坊さんが何もしてなかった。幸いそこにチェロキー（インディアン部族）の子孫がおって、それでわたしはその供養の仕方、知っているから。こっち（仏教）の。やっぱり一緒に、スーッと全部、天界へ行ってしまおうよ。

だから、結局ね、教典だけ読んでも…本に書いてあるからと、この教典をね、壇に上げたって、この霊はどこにも行けないわけなんです。この教典をしっかりと読んでわかったら、心のヴァイブレーションでスッと行けるけども。丸暗記しても、結局どこにも行けないわけです。だから、今もうトロントでも幽霊がウジャウジャ。それが人にくっついてね。六祖大師が言ってました、「家を空っぽにしたら、すぐ魔が入ってくる」と。だから「いつも仏を心の中に入れてなさい」と。今、無神論者がほとんどだから、「何もないない」。スイスイと、そういう（笑い）魔が入りますね。ああいう（六祖大師の）今から1400年前の信仰の強いときですらそうだから。今なんて明日もない未来もない過去もないで（笑い）、好き勝手にやってるから、もうほとんど麻薬にやられて、おかしくなってしまう。もう手付けられない。ただ後はね、刑務所病院とこにぶち込んで出さない。刑務所ですよ、はっきり言って。もう手の付けようがないから。

【参加者】

東京はどうですか？

【水源師】

東京も…いるでしょ（一同苦笑）。

【参加者】

トロントよりはましですか？

【水源師】

トロントも…世界中どっこいどっこいになってるんじゃないですか（苦笑）。

## バックグラウンドエネルギー

---

【参加者】

アインシュタインが、バックグラウンドエネルギーについては、手を付けなかったという。それはどうして？

【水源師】

あれはやっぱり空に関係しているから。

【参加者】

最近の宇宙物理学だと、空間そのものがエネルギーをもっているという話になってますが、その話ですか？（【水源師】 そうそう）つまり、物理的な意味での「空間」っていうのと、仏教的な「空」っていうのは同じなんですか？

【水源師】

同体です。同じです。心即仏で同じ。ただ、そこに手付けたら大変なことになる。分からずにいじったら。結局、モンサントが原爆を造ったり…なんていうの？…遺伝子組み換えやって、それが世界中に入って、次の生命体がどうなるか分からない状態になる。

【参加者】

今その辺を研究しようということやってるみたいですけどね、宇宙物理学は。

【水源師】

これは心の問題だから、できないはず。なぜかといったら、その世界に入ったらね…白だと思ったら白になるんです。物質が出たと思ったら物質が出てしまうんですよ。

というふうに、その世界はもう心で物質を作ってるんですよ。あなた方はみんな。食べるだけじゃなく。

だから、それは絶対、解明できないし、もしそこに手を付けたら、大変なことになってくる。まあ、遠い遠い、今から万年か10万年単位にこのまま進んだ場合には、ご褒美

として、戦争もなくしたら、少しは解明できるかもわからないけども、その前に、完全に今の状態だったら、お釈迦様の予言どおりの行程たどるみたいですね。

ということは、今現在が一番大切で、自分自身をしっかり磨いてくださいということ。それはね、やっぱり全世界を救おうというのはすばらしい話だけど、お釈迦様でも誰でもできないことを、どうしてわたしたち凡人ができますか？あきらめろというんじゃないけど、人を助けなきゃいけないけど？その（笑い）、無謀はやめなさいと、無謀は。というのは、無謀につぐ無謀でしょ？人が楽になるところか奴隷化ばかりしてるでしょ？こういうふうには、言葉巧みに人を操って。

だから、この中でいくら正しいことを言っても、ほとんど悪用されるか…アインシュタインであっても悪用されるくらいでしょ？オッペンハイマーとかそういうすばらしい人でも。だから…善意がね、逆に悪用されたら大変なことですよ。だから、よほど気を付けてから行動しなければ。

もうおかしくなってしまうてるから。お釈迦様は「この世は異常だ」って言うてるから（笑い）。現実には本当にそれを実行してるけどね。

## 火宅から出る

---

### 【水源師】

夢も希望もないようだけど、そうじゃないんですよ。こういうふうには、すばらしい法があるし、宇宙の華を咲かすことができるものをみんなもってるわけで、ただそれに目を向けずに逆方向をやって…「こんだけ悪いことをしたから、ご褒美ください」ということはないということ。いいことをすれば「いっぱいご褒美、与えます」という。それもね、ただ自分の命を救えばいっぱいご褒美あげることが、家がぼうぼう燃えてると。だから、子どもに長者がだまして「外に出れば、オモチャもいっぱいあげる」と。ところが、中で子どもたちが遊んで、もう火がついても遊んで出ようとしないと。それが現実の話。

だから、ただ自分でこの火宅から出れば、もう大変なご褒美もらおうと、ただそれだけのこと。だから、それで「全部一切この地球上の人を外に出そう」と。まあ、その前に殺されるでしょうね、「この異常者が」って言うてる。キリスト様みたいに、ブーンと（笑い）。

ま！そういうことは、小さくどンドンやるのはやってもいいけどね。いくら UN (United Nation : 国際連合) に行ってもマイクロフォンで言ったってさ、United Nation でどれだけの聖者が演説したと思います？名だたる名僧とか偉い人がみんな UN に行

って演説してるけど、わたしたち聞いたこともないでしょ（笑い）。そこだけの場。その人たちは **United Nation** で発表したから、全世界に報告したと思ってるけど、そのギャップが激しい。

だから、まず自分自身を磨いていけば、周りからどんどんどんそっちに付いて行って、結局100万匹いる湖の水鳥もワーンと騒いでるけども、時間が来れば、一つの鳥が南に飛んでいきます。そしたら編隊、組んで、（その一匹に付いて）ザアアーンと行く。それしか自分で示すしかないんです。

だから、「自然を見てください」という。それをね、一人の大將の鳥がね、100万匹、背負って行けるわけないでしょ。ただ自分で行動を示せば、ズーンと付いてくるんだから。

なぜかといったら、この大將は、どこに休むところがあるか知ってるし、どこにエサがあって完全に安全なところを知ってるから、みんな我先と付いていくわけ、ザーッと、「あ、行った行った。わたしも残ったらどうなるかわからない」ということで。それがお釈迦様の法です。だから、そのまま残れば「冬が来るし、食べ物がなくなるし、大変ですよ」という。

でもね、「なんにも起こってないじゃない。大丈夫よ」と（笑い）。こうして何千年もやってるけど、実は戦争につぐ戦争。それから、ちょっと楽になったと思ったら、なんか税金を上げるとか。今度はお金がないから、人を解雇するとか。まあまあまあ…やりたい放題（笑い）。もしそういうゲームに入れば、一般の方はただ泣き寝入り。

そうじゃないんだよと。そういうことを捉えて、そういう火宅から出て自分で修行しなさいと。「それだけでもう、夢よりもすごい栄光が与えられますから」と。実際そうです、実際そう。永遠たる生命体と一切のものが自分と同体になるんだから、永遠に。

人間っていうのは、人がお城を持てれば「～のお城がほしい」とか、それもたった50年か100年…せいぜい、もしあったとしても。そして消え去ると、「陽炎のごとし」。

そのために、宮殿を守るために、戦争を起こして、他の国に行ってお金を盗りに行ったりとか、心がそういう異常なシステムだから、だんだんだんだん劣化していくという。（そういう）自然の摂理の中に今、私たちが入っていつてるわけなんですね。

だから、戦後ね、確かに右往左往して食べるものもなかったけど、ちょっと落ち着いたら平安になって、今、現在よりもずっと心豊かに過ごしてましたよ。確かにお菓子はなかった、アイスクリームもなかった。おにぎりにね、味噌をちょっと塗って、それを持って山に行って、おいしく食べてね、宿題もせず「あー、今日は楽しかった！」と（笑い）。「まあ、楽しかったから、明日、先生に怒られて廊下に立たされるか」と（一同笑い）。

それでもやってこれるわけですよ、わたしみたいに。今だったら親が呼ばれたり、もう大変でしょ。

そういうわたしでも外国に行って、こうして世界旅行して、真面目に真面目にやった方たちが詰め腹を切らされて、校長先生やったり、大学の教授やったり、会社の社長やったり、大体過労で6ヶ月、皆入院しているんですよ。だからみんなから恨まれて「お前は逃げた」と。「逃げた」という（笑い）。「調子よく逃げまわった」と（笑い）。逆にそう言われた、「なんで私たちと一緒に苦しめないのか」と。社会がそうになってないもの、そのときに言ったって誰も信じないしね。逆に「お前は異常者か、大ぼろ吹きか」って総攻撃を受けるから、「じゃあ、勝手にしろ」と言って、それが現在。ま、そういうことです。

## インドの聖者

---

### 【参加者】

ラーマナ・マハリシ<sup>1</sup>（1879-1950）とか、クリシュナムルティ<sup>2</sup>（1895-1986）ってというのは、仏教的にはどのくらいの境地に入っているんですか？

### 【水源師】

やっぱり、あの方たちはみんな聖者でしょ？聖者ですよ。ただ、やっぱり南伝のヒナヤーナ（小乗）系、ヒンズーの聖者は独り片隅において、そこで人が訪ねてきて、その力でもって幸福を与えとか、そういうふうな方で、やっぱり尊敬されるべき方です。

ただ、社会体制が違うもんだから、インドの習慣とかあっちの方ではね…女性が極端に地位が低く見られるんですよ、差別されて。そして2500年前、お釈迦様がはじめて男と女を同等にして、今の男女平等という組織団を作ったのは、お釈迦様が最初で、いまだにそうです。キリストのヴァティカン（カトリック）でも、ナン（修道女）ではあるけど、プリステス（女司祭）にはなれない。ところが、仏教は比丘・比丘尼で同等にしているからね。でも、差別があって非常に苦労しているから、逆に台湾の比丘尼は、男の比丘を馬鹿にしているみたいですよ（笑い）。「ひとり威張って（笑い）、何もできない」と。韓国の比丘尼も強い強いと、もうかなわないと、男が逃げまわる。

---

<sup>1</sup> ラマナ・マハリシともいうインドの聖者。悟りに到達するためのまっすぐな道として、アートマ・ヴィチャーラを強く勧めた。アートマンは「自ら、自分自身」、ヴィチャーラは「探求、吟味」。

<sup>2</sup> ジッドゥ・クリシュナムルティはインド生まれの宗教的哲人、教育者。既存の宗教や哲学によらず、生を通しての十全な気付きにより、精神をあらゆる条件付けから解放することを説いた。



だから、結局、価値観の問題で、やっぱり、そういう聖者たちは、そういう場所にいればその方式に素直に従って人を助けると。もちろん、自分自身だけのためだけにやっているわけじゃない。真理を追求した挙句は、「人をいかに救うか」ということばかりしか考えてないと思います。

## 四聖諦と十二縁起

---

### 【参加者】

先ほど十二縁起の話が出たんですけども、仏教で「四聖諦」（苦・集・滅・道）というの、それはどういう位置付けなんでしょうか。

### 【水源師】

あれはパーリ語でね、マラーヌサティ（*Maranasati*：死随念）といいますね。自分の死を見つめるということですよ。

### 【参加者】

あの…苦しみ一苦の四つの真理ですね。

### 【水源師】

ああ、ごめんごめん。結局ね、お釈迦様が悟ったときに、四聖諦というのは「この世は苦である」と。苦が固まって集まって、そして、それを消滅させて、ニッバーナに行く、という四つのことを説いたという、そのことです。その簡単な題目。

なんで苦のかたまりであるか、ということをはっきり見るには、やっぱりナーマ・ルーパ、それから十二縁起を観たときに、「なるほど、この世は苦以外の何物でもない」と。永遠の時間帯を通ったときに、いいときもあれば悪いときもあると、この繰り返しであると。この輪から一体どうして出られるか、というのがニッバーナに行くことで、その方法をお釈迦様が説いて去ったわけなんですよ。「永遠なる大平安の世界に連れていきます。あります」と、そういうことです。

### 【参加者】

では、仏教を簡単にするに、四つの苦の真理という観点から、まとめたわけという感じですか？

### 【水源師】

この世の中は、そういう仕組みになっていると。

わたしもね、その昔、パオでお坊さんに同じ質問をしたんですよ。「この四聖諦って

なんですか？」と言ったら、全然、違う回答を持ってきて、「小説を見せて、これだ」って言う。わたしがびっくりしました。「いや～、お坊さんも全然、知らないのか」と思って。「詳しく知ってるもんかな～」っと思って。わたしも彼と同じようにね？マラーヌサティってすぐ変なことを言ってしまう（笑い）。同じように勉強してないから（笑い）。ま、そういうことです。

四聖諦っていうけども、あっちの方は **Dependent Origination**（縁起）といって、十二の行程の解説を書いています。そのことを四聖諦というふうにまとめて。そして、どういうふうにそこから抜け出すかという、そのサイクルを十二縁起で説いているわけなんです。

#### 【参加者】

四聖諦と十二縁起はイコール？

#### 【水源師】

それ（四聖諦）をね、詳しく説明したのが十二縁起。こういうふうな過程でなっていくから、その原因はアタッチメント（執着）であると。その前に苦であるというのは、一切のルーパ（物質）は発生して消滅すると。だから、生は必ず死につながると。これからは抜けられないと。この繰り返しをやると。そのときに死をやるときに「苦しみが発生します」と。悲しみ、痛み、愛するものが別れるとかね、そういうふうな現象を起こすでしょう？だから、この世はそういうふうになってますと、そういう観点から。

ただし、ハッピーバースデーとか、明るいところがあるでしょう？それは西洋も強調することで、だから、西洋では、死体は絶対見せない。すぐ隠してしまう。結局こっちのね、「人生はいいもんだ。明るいもんだ。素晴らしいもんだ」ということで、死ということ消してしまう。

ところが、仏教の方は、そういうハッピーバースデーも、「最後には死になるでしょ？」と。「これを見つめてください」と。「こういう繰り返しをいつまでしますか？」ということなんです。というものの見方の違いですね。

特に、わたしみたいに年を取ってくればね、一年一年、体が重くなるし、動かなくなるし。いや～若いときはね…いつまでも同じ状態でいくというふうに思ってたけど、全然、違いますよ。頭も悪くなるし、記憶も落ちるし（笑い）。

西洋の方は、永遠にオリンピック選手みたいなことを言ってるけども、いや～そうじゃないですよ。はい、何かありますか？

## 自分で空を観る

---

【参加者】

「ダルマ」っていう言葉はね、非常に幅広い…。

【水源師】

「法」です。「法」ということは「真理」。

【参加者】

ある教典では60種類くらいあるとかなんとか、聞いたことがあるんですが。

【水源師】

一切、空より発しますから。空をちゃんと観れば、すべての法則が分かります。それを分析すれば、無量の数の法が出てしまいます。

【参加者】

「空」を観た人っていうのは、そもそもいないんじゃないですか？たとえば、日本にいらっしゃるものなんですか？

【水源師】

いや、観てるけど。これをいかに分析していくかが非常に重要で、そのときにどうしても避けて通れないのが、北伝でも南伝でもナーマ・ルーパをしっかり観なきゃいけないと。それから、因果関係をしっかり観なきゃいけないと。どういうふうに因果関係を観るかといったら、ある人は自分の過去を大体、数千回、観てますね。そのパターンを見極めて原因を探っています。ずーっと観てる。お釈迦様はもう…ダーッと無量の時間を観たんでしょうね。それが因縁をはっきり知ること。

ただ、一般の人はさ、アインシュタインが  $E=mc^2$ 。内容は全然、分からんでも、物質とエネルギーは一緒だって、端的。でも、その公式は大体6ページ、非常に簡単に数字で書かれているけども。

でも、この世で分かる人は5人といない、といいますよ、それをしっかり分かるのは。その最高に分かったケンブリッジ大学の教授<sup>1</sup>ですね。あの方が、分かっているという最高峰が、100ポンドの賭けに敗れました。ヒッグス粒子ですか？「あれはない」と。だから、そういうことです。

---

<sup>1</sup> スティーヴン・ホーキングのことで、ミシガン大学のゴードン・ケーン氏を相手に、ヒッグス粒子が見つからない方に100ドル賭けていたが、負けてしまった。

それは、一人一人で空の世界を観て、検証していくということ。それ以外は、いくらそれを説明しても意味のないことです。全く意味のない。というのは、それを観て涅槃に入っていくから。さっき言ったでしょ？水鳥がね、大将がどんなに力が強くて、100万匹、連れていけないわけなんです。自分が飛んだ飛行行程を付いていかせることはできるけど。それだけです。

**【参加者】**

「空」のお話なんですけど、空を観るということで、本当の私たち自身が空であるということなんでしょうか。

**【水源師】**

いや、それは体験。なんでも空だから、これでも空になってしまうしね。あの空（そら）も空（くう）だし。それがすべてつながっているから。それをね、実際に体験したときに、その本源が分かります。そこから、それを今度は一つ一つのダルマ（法）に検証してね。山も川も顔もまた「仏」（ぶつ）である、ということまでしっかり観なきやいけない。

**【参加者】**

そのナーマ・ルーパも、やっぱり仏である、ということになりますか。

**【水源師】**

そこまで観なきやいけない。ということは、よほどの最高段階に近いところだから。それがすぐ分かったら、お釈迦様以上ですよ。お釈迦様でも、もうどれくらい…三阿僧祇劫の時空を経て、やっとそこまで到達して、その過程を教えてくれたんだから。

ただ、一步一步こういうふうにもつうつうと道もつくってくれて、それから階段もつくってくれて、家もつくってくれて、休むところもつくってくれて。わたしたちは一步一步、行けば、非常に楽に行けます。ただひたすら上がっていく。

自分の足で富士山のとっぺんに登ってくださいという。ここでいくら空だ、なんだって言っても、富士山の頂上に行ったら初めて景色が分かりますから。そういうことです。あの、なぞなぞ解きじゃないんですよ、本当の体験。

今日、体験、瞑想してましたけど、何かいい現象を起こしましたか？ゼロですか？寝ずにジャーナに入ることができましたか？じゃ、もう少し瞑想して。

---

# 水源禪師法話集 14

(2012年9月17日 忍野合宿)

---

2013年5月29日 発行

編集兼発行 一乗会